

宣教師としての召し

「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたたちに命じておいたすべてを守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」(マタイ28:18-20.)

皆様いかがお過ごしですか。南ニュージャージー・マルモラのトリニティー合同メソジスト教会に赴任して1年6ヶ月が過ぎました。2013年は22年に渡って続けてきた日本語伝道礼拝をSMJ(日本人特別牧会)にお委ねし、グッドシェパード合同メソジスト教会を断腸の思いで後にし、妻の泉と当時生後3か月半の新を連れて慣れない土地へ異動しましたが、その後の1年半は正に「あっ」という間でした。

赴任後早々3つの壁が立ち上がりました。

1. 言葉の壁。2. 2012年に教会でスキャンダルがあり多くの教会員が傷ついた。その教会員の癒し。3. 同じくスキャンダルでガタガタになった教会と教会幼稚園の財政的再建。これらとは別に22年続けてきた日本語伝道を継続したいという思いが赴任前からあり、4つ目のチャレンジとして隠れ日本人、日系人の伝道を掲げ祈りました。

1. まず言葉の問題。アメリカに来て30数年、改めて自分の英語の未熟さを実感いたしました。アメリカ人の教会にお仕えして20年になりますが、最初の赴任地パークリッジ合同メソジスト教会でも、私の「英語(説教)が解らない。」という方がおり、今は召された婦人会の面々に英会話、発音の指導などをしていただきました。パークリッジには13年いましたので最後の方は皆さん私の発音に慣れてコミュニケーションの不自由はなくなりました。次の教会はフィリピン人が6割、ジャマイカ、トリニダード、南アフリカ、ガーナ、インド人、韓国人、日本人、白人、黒人と国際色の強い教会で、アメリカ生まれの白人、黒人以外、皆癖のある英語を話していましたので、私もその一人として説教には全くクレームが付きませんでした。

ところが南ニュージャージーのケープメイは避暑地ですが、一步内陸部にはいると白人ばか

り、湿地帯が続くなかに村や町があるので、

「一体自分はどこにいるのだろうか?南部の田舎かしら?」と思うことがあります。そこに住む白人は外国人と接する機会もあまりなく、他民族が話す英語にも慣れていません。赴任してほんの数週間で「説教(英語)が解らない。」という苦情がきました。そのほとんどの方が高齢者で補聴器を着けています。しかもみな音響の悪い後部席に座っている。

この3重苦をどうしたら克服できるか?音響は確かに後方に行くほど悪く、ネイティブの方が話しても聞き取り難いのですが、長年教会に来ている会員は自分の席が気に入っていて決して移動しません。ではオーディオシステムそのものを買って替える?この案は私が赴任する前年に役員会で財政難を理由に否決されたとのこと。やれやれ・・・。残りは私の英語力アップですが、30年以上アメリカにいますが、いかんせん20歳過ぎてからアメリカに来ましたので、発音上達に必要な音感の向上はあまり期待できません。そこで私が思いついたのは説教をコピーして配布することでした。と言っても説教前のドラフト原稿で、訂正やメモ書きが随所にあるものです。説教前に校正時間はありません。

それでも補聴器を着けている方々には喜ばれ、当初8部用意していましたが、今は18部用意しています。全てのコピーがその場で読まれる訳ではなく、中には「自分の親や親戚に送る。」と持って帰る方もいます。現在では毎週教会ホームページに校正された物を掲載していますが、インターネットを使わない世代、病気や諸理由で礼拝に来れない方にも毎週お送りしています。

2. 教会員の霊的な癒し。これは神の愛、恵みなくしては成しえませんが、2012年に40名もの教会員が、また2013年も20名近くが教会から去って行きました。スキャンダルの発端は幼稚園の経営不正で、追い打ちをかけるように牧師のスキャンダルが起こり、あまりにも多くの教会員、幼稚園保護者、コミュニティーの人々が傷つきました。教団本部の対応もまずかったようで、教会に残った会員も一連の不祥事を引き起こした人たちへの怒りや心の傷が心の底に沈殿し、就任当初から不信感や絶望感を彼らから感じました。町の人々の教会、幼稚園に対する信頼も失墜していました。信頼を築

くには長年かかりますが、それを失うのは瞬時です。たった一つの不幸事で教会は社会の信用、人々の信頼を失ってしまいます。

赴任して最初の数か月は毎週2度3度と夜にミーティングが開かれ、教会の問題、幼稚園の人事、財政再建の課題等が話しあわれました。昼間は教会員の家庭を訪問したり、オフィスで会ったりして彼らの話を聞きました。1年6ヶ月経ち、その間、過去の不幸事を知らない新しいメンバーが幾人も加わり、教会の雰囲気も随分と良くなりましたが、神の癒しはまだ必要とされています。

3. 財政難の克服、経営健全化。これは魂の癒しと同時進行と言っても過言ではありません。教会員が増えないことには献金も増えません。だからと言って手をこまねている訳には行きません。トリニティーに来て驚いたことは財務管理がこれまでなされていなかったことです。毎月ある定例役員会での財務報告も、税理士である教会会計からの難解なレポートを受けるだけで、ほとんど詳細を話し合わずにいました。私はあまり財務に口を出したくありませんが、とにかく分かり難いレポートで、もっと簡単明瞭、素人にも分かる物を要請しました。

しかし牧師があまり口出すより、これまでほとんど活動していなかった委員会：財務委員会(Finance Committee)、理事会(Board of Trustee)を活性化し、教会員に自らの手で改革をしておうと思い直し、秋の教会の年次総会を機に組織改革に取り組みました。新しく会員になった方達に各委員会に加わっていただき財務の簡素化に取り組んだところ、教会と幼稚園がここ数年、赤字を計上していたことに初めて皆が気づきました。特に幼稚園は2012年以前は70名近くいた子供たちが2013年の新学期には32名に減っていたのですが、先生や補佐、ディレクターは以前と同様の人数、労働時間も同じと、ザル経営をしていました。教会の赤字も幼稚園の赤字補填が主な理由だということが判明しました。

そこで2月に財務委員会と牧師信徒関係委員会(Staff Parish Relations Committee)が幼稚園職員の労働時間の見直し、賃金カットを断行、随分と幼稚園の先生や補佐からは苦情もありましたが、健全経営に一歩づつ近づきました。

更に7、8月には初めてサマースクールを実施しました。2013年、赴任して直ぐ、娘の新しいベビーシッター探しで右往左往した折に教会幼稚園が夏の間休校していることを知り、幼稚園運営委員会で「何故、サマースクールをしないのか？したら必ず生徒が集まる。」と提案しました。前頁にも書きましたがケープメイは避暑地でマルモラの近隣も夏は人が増えます。親子連れでビーチに行く人たちが2~3ヶ月長期滞在します。ベビーシッターも夏は見つけるのが大変なほど引く手あまたです。そのような地域性なのにサマースクールをしないのはあまりにも勿体ない。



幼稚園サマースクールの子供たち

サマースクールの企画が正式に教会役員会に提出されたのは14年の3月、遅すぎる感がありましたが、新プログラム導入に慎重過ぎる役員会を何とか説得しOKを取り付けました。企画書では生徒数16名程度と最低数にし、先生も数名のみとして見積もりを出したサマースクールでしたが蓋を開けてみたら33名の子供の申込みがあり7、8月は私が来てから初めて黒字を計上しました。サマースクールの楽しい評判が人を呼び、新学期(9月)には57名の園児が在籍するまでに幼稚園は回復しました。当然、経営は若干ですが黒字になり教会財政の健全化も一歩進みました。

この1年半の間、慣れない土地の白人ばかりの教会にあって「何故自分がこのような難しい教会に派遣されたのだろうか？」と何度となく思

いましたが、最近「自分は宣教師としてこの地に遣わされたのだ。」という召命の確信が与えられました。宣教師と聞くとアメリカやヨーロッパから牧師や神父がアジア、アフリカにはるばるやって来て福音を宣べ伝えるというイメージがありますが、よくよく考えて見ますと、私も外国でその国の言葉を遣って、その土地の人に福音を宣べ伝えている。「同じだ!」そう考えると何だか、言葉の問題で臆病になったり、これまでと全く違う環境の中での教会の仕事に不安になっていた自分に「そのままの自分で良いんだ。自分は宣教師なんだ。」と思えるようになり心の平安が与えられました。そうすると不思議なもので神様はどんどん新しい人たちに教会に送ってくださったり、完全にこの地では無理!と諦めていた日本人、日系人伝道にも一筋の光明が与えられました。



2014年10月5日、瀬戸ジェイドン洗礼式

1980年代、30年以上も前ですがトリニティー教会に音楽主事をしていた白人の女性で日本人と結婚した瀬戸アルベルタさんという方がいらっしゃいました。子供たちも教会に来ていたそうですが、25年ほど前、一家はトリニティーから離れてしまい、その後一切トリニティーには来られませんでした。そのアルベルタさんが昨年8月から息子夫婦、お孫さんと一緒にトリニティーに戻ってこられ、10月5日にお孫さんの洗礼式を行うことができました。それに伴いアルベルタさん、息子の良男、奥さんのナンシーさんが教会に転入会されました。日

本語ミニストリーをしばし諦めざるを得なかった私に神様が思いも寄らない贈り物を下さったような気がしました。

この他にも伝道コンサート、リバイバル集会、基金集めの食事会、合同礼拝など多くの事が祝された2014年でした。マルモラで2年目のクリスマスは1年目以上に心から悦び感謝することができました。

現在進行形ではありますが、以下はマルモラで学び肝に銘じたことです。1. 日本人として誇りを持つ。しかし常に謙虚であれ、2. コミュニケーションの大事さ、3. 自分の意識変革。4. 至る所に青山あり。

もう二つ。今年は私が長年関わらせていただいたSMJ・日米合同教会のサマーキャンプに日本基督教団と協力して福島の子供たちを招くというビジョンが与えられています。放射能被害で故郷から離れている子供たちを5名から10名ほど迎えて、楽しい時、福音の喜びを経験してもらえれば願っています。どうかこのビジョンが実現できるようお祈りください。

私事ですが、2014年、日本基督教団出版の季刊誌「教師の友」に「宗教画を10倍楽しむ」と題して執筆しています。絵画の見方を簡単にまとめています。2015年も継続になりました。年4回しか発刊されませんが興味がありましたら是非ご覧下さい。

平安、
吉松 純

教会：The Trinity United Methodist Church
20 Route US 9 N, Marmora, NJ 08223
(609) 390-3248

Website: www.trinityumcmarmora.org

Facebook: facebook.com/trinityumcmarmora

現在の教会の色々な活動がご覧いただけます。

UMC 日本語ミニストリーホームページ：

<http://www.umc-japan.org>

アップデートしていませんが継続しています。

SMJ レオニア日本語礼拝（第二日曜日午後3時）

The Presbyterian Church in Leonia

181 Fort Lee Road, Leonia, NJ 07605

吉松牧師も3ヶ月に1度説教に伺っています。

UMC-Japanese Ministry
101 Route US 9 N,
Marmora, NJ 08223 USA

サーキットライダー外伝 2015年新春



United **M**ethodist **C**hurch - **J**apanese **A**merican **M**inistry

合同メソジスト教会日本語ミニストリー

Pastor : Rev. Dr. Jun Yoshimatsu 牧師 : 吉松 純

日本語ミニストリー: www.umc-japan.org

トリニティー合同メソジスト教会 : www.trinityumcmarmora.org

Facebook: facebook.com/trinityumcmarmora